

平成 20 年 11 月 27 日

内閣総理大臣

麻生 太郎 殿

## 抗議文

全国医学部長病院長会議

会長 小川 彰

先週開催されました全国都道府県知事会議におきまして、麻生総理は医師について「社会的常識がかなり欠落している人が多い。」旨、発言されたと報道されています。

日本における医師養成を一手に担っている全国八十の医学部、医科大学の教育者を代表して、また、これらの大学を卒業し医師として昼夜を問わず真摯に病める方々の診療に努力している二十数万名の現場医師の一人として、そして、国民の一人として**厳重に抗議するものです**。この発言は、日本の医療を支えている医療人日常の努力を愚弄するものであり、許される発言ではありません。**発言の撤回と誠意をもった謝罪を要求するものです**。

いま、本邦の医療現場は医師不足、地域偏在、診療科間の偏在により、医療崩壊の状態にあり社会問題となっていることは、総理とて認識されているものと考えます。医師不足、医療費削減政策が続く厳しい状況の中、世界保健機構から世界一の医療水準と評価されているのは、現場医師が過酷な労働環境に耐え、真摯に日常診療に向き合っているからに他なりません。現在、医育機関を含め様々な領域で医療崩壊を食い止める様々な努力を重ねているところです。

今般の総理の発言は、各分野の様々な努力や、ギリギリの状態ですらにか持ちこたえている現場医師のやる気と熱意を大きく削いだという意味で医療崩壊を更に強く増悪させたと言っても過言ではありません。この点、この発言は、失言ですまされる問題ではなく、この発言がもたらした社会的影響を十分にご認識されるべきと考えます。総理にはこの正しい認識に立って、**発言の撤回と誠意をもった謝罪を重ねて要求するものです**。